

# 荊芥連翹湯

原典：「万病回春」巻の五 (龔 廷賢) 1, 2

## 耳病

脉 耳病腎虚は遲濡、其の脉浮大は風と為し、洪動は火賊、沈瀦は氣凝り、数実は熱塞がる。此れ久聾は腎を責むるに専らなり、暴病は浮洪にして両尺相同じ、或は両尺数は陰火上衝す。

両耳腫痛するは腎經に風熱有るなり

### ○荊芥連翹湯

荊芥、連翹、防風、當歸、川芎、白芍、柴胡、枳殼、黄芩、山梔、白芷、桔梗各等分、甘草半減。右を剉みて一剂とし、水煎し食後に服す。

## 鼻病

脉 右寸の洪数は鼻衄鼻鼈、左寸の浮緩は鼻涕風邪なり。

鼻淵は膽が熱を腦に移すなり。

### ○荊芥連翹湯

荊芥、柴胡、川芎、當歸、生地黄、芍薬、白芷、防風、薄荷、山梔、黄芩、桔梗、連翹各等分、甘草減半す。散に剉みて水煎し食遠に服す。

鼻淵者膽移熱於腦也

① 荊芥連翹湯

荆芥	柴胡	川芎	當歸	生地黄
芍薬	白芷	防風	薄荷	山梔
黄芩	桔梗	連翹各等分	甘草減半	

剉散水煎食遠服

鼻衄

② 右寸洪數鼻衄鼻鼈左寸浮緩鼻涕風邪

鼻塞聲重流涕者肺感風寒也

③ 兩耳腫痛者腎經有風熱也

④ 荊芥連翹湯

荆芥	連翹	防風	當歸	川芎	白芍
柴胡	枳殼	黄芩	山梔	白芷	桔梗
甘草減半	右剉一剂	水煎	食後服		

耳病腎虚遲濡其脉浮大爲風洪動火賊沈瀦氣凝數

實熱寒此久聾者專於腎責暴病浮洪兩尺相同或兩尺數陰火上衝

その他の古典：

「古今方彙」<sup>3</sup>

「雜病源流犀燭」(沈 金鰲、清)

「漢院臆乘」(百々漢陰、江戸)

煎

### 耳病

滋腎通耳湯同治腎虛耳聾而鳴

黃栢酒黃芩同知母同生苜 白芍

當歸 川芎 柴胡 白芷 香附

各 水煎。胸膈不快加

青皮枳殼

龍膽湯同左耳聾者忿怒動膽火也

黃連 黃芩 梔子 當歸 陳皮

南星 龍膽 香附各 玄參七分 青黛

木香各 乾姜三分 生姜水煎

滋陰地黃湯同右耳聾者色慾動相火也

山藥 山茱 當歸 白芍 川芎

各 丹皮 遠志 茯苓 黃栢

酒 菖蒲 知母 澤瀉各 熟苜

各 水煎或為蜜丸

荊芥連翹湯同治兩耳腫痛者腎經有風

熱也

荊芥 連翹 防風 當歸 川芎

白芍 柴胡 枳殼 黃芩 山梔

白芷 桔梗各 甘州各 水煎

### 鼻病

通竅湯同治感冒風寒鼻塞聲重流涕

防風 羌活 藁本 升麻 乾葛

川芎 蒼朮 白芷各 麻黃 川椒

細辛 甘州各 姜煎。肺有邪火加

黃芩

麗澤通氣散蘭治鼻不聞香臭

黃芪 蒼朮 羌活 獨活 防風

升麻 葛根 甘州 麻黃不去節

川椒去目 白芷各 姜葱水煎 食遠

服

荊芥連翹湯同治鼻淵膽移熱於腦也

耳病門連翹湯去枳殼加薄荷生苜者

也

処方構成： 現在「万病回春」耳病門、「万病回春」鼻病門と 一貫堂処方（森 道伯，慶応3年—昭和6年）の3種類が存在する。

A. 湯液 1. 「万病回春」耳病門

荊芥，連翹，防風，當歸，川芎，芍薬，柴胡，枳殻，黄芩，梔子  
白芷，桔梗，甘草

2. 「万病回春」鼻病門

荊芥，連翹，防風，當歸，川芎，芍薬，柴胡，~~枳殻~~，黄芩，梔子  
白芷，桔梗，甘草，薄荷，地黄

3. 一貫堂処方

荊芥，連翹，防風，當歸，川芎，芍薬，柴胡，枳殻，黄芩，梔子  
白芷，桔梗，甘草，薄荷，生（乾）地黄，黄連，黄柏

cf. 温清飲では熱地黄を用いている

cf. 北里東医研処方

（万病回春 耳病門）

荊芥2，連翹2，防風2，当帰2，川芎2，芍薬2，柴胡2，枳殻2，黄芩2  
山梔子2，白芷2，桔梗2，甘草1.5

（一貫堂）

荊芥1.5，連翹1.5，防風1.5，当帰1.5，川芎1.5，芍薬1.5，柴胡2  
枳殻1.5，黄芩1.5，山梔子1.5，白芷2，桔梗2，甘草1.5，薄荷1.5  
地黄1.5，黄連1.5，黄柏1.5

B. エキス剤（医科用）<sup>4</sup>

（高砂薬業—大杉）

荊芥，連翹，浜防風，当帰，川芎，芍薬，柴胡，枳実，黄芩，山梔子  
白芷，桔梗，甘草，薄荷，地黄，黄連，黄柏

（KTS建林松鶴堂—伸和）

荊芥，連翹，防風，当帰，川芎，芍薬，柴胡，枳殻，黄芩，山梔子  
白芷，桔梗，甘草，薄荷，地黄，黄連，黄柏

（太虎堂，ツムラ，テイク）

荊芥，連翹，防風，当帰，川芎，芍薬，柴胡，枳実，黄芩，山梔子  
白芷，桔梗，甘草，薄荷，地黄，黄連，黄柏

C. その他（一般薬）<sup>5</sup>

現在32社より製造。そのうち6種が煎じ薬、26種がエキス剤で、このエキス剤のうち10種がエキス錠剤である。

方意：

一貫堂処方の荊芥連翹湯は、黄連解毒湯（黄連・黄芩・黄柏・山梔子）と四物湯（熱地黄・白芍・当帰・川芎）との合法である温清飲に、荊芥・防風・白芷・連翹・柴胡・薄荷・桔梗・枳殻・甘草などを加えたものと考えられる<sup>6,7</sup>。

またこれとは別に、柴胡清肝湯の牛蒡子・天花粉を荊芥・防風に置き換えたものともいえる。また頭痛、のぼせ、目の充血、口渇、いらつきなど頭部に熱の症状がでてくるのに、肝の異常が関係している。

薬理：

黄連・黄芩・黄柏・山梔子はすべて消炎・解熱作用をもち、広いスペクトルの抗菌作用を示す。黄連・黄芩は抗ウイルス作用をもち、白血球貪食能や網内系の機能を高め、免疫能の増強に働く。また黄芩は抗アナフィラキシー効果をあらわす。このほか黄連・黄芩・山梔子は利胆作用をもち、黄柏と共にトランスアミナーゼ活性を低下させる他、降圧・鎮静の効果があり、脳の充血を軽減し興奮性を抑える。また黄連・黄芩・黄柏は炎症性充血を軽減させ、山梔子の止血作用、黄連の血小板保護作用、黄柏の毛細血管透過性抑制作用により、共同して出血を止める。なお黄芩・黄柏には利尿作用があり、毒素の排泄を促進する。熱地黄をはじめ当帰・白芍は糖・蛋白・脂質・ビタミンなど栄養分を含み滋養強壮に働き、全身の栄養状態を改善し神経・内分泌機構を正常化させる。特に当帰はビタミンB<sub>12</sub>、ニコチン酸、葉酸などを含み、一定の抗貧血作用がある。また活血の当帰・川芎は、血管拡張作用を通じて栄養物の組織への供給と分配を強める。白芍は鎮痙作用があり筋の痙攣をしずめ、白芍・当帰・川芎は共に鎮静作用をもつ。

このように黄連解毒湯は消炎・解熱・鎮静・抗菌・抗ウイルス・利胆・止血・利尿・降圧などの効果をもち、四物湯は滋養強壮・循環改善・月経調整・鎮痛・沈痙・鎮静などの効果をあらわす。これらの効果に加え、荊芥連翹湯では荊芥・防風・白芷は辛温解表剤で、さらに発散を強め鎮痛効果を付加し、連翹・柴胡・薄荷は辛涼解表剤として働く。桔梗は去痰排膿、甘草は緒薬調和として作用すると同時に咽喉部の炎症をとり、間接的に耳の炎症を緩和させている。枳殻は蠕動を促して消化吸収を補助する<sup>8</sup>。柴胡・黄芩・山梔子で肝の異常を治療し、頭部に熱の症状がでるのを当帰、川芎、芍薬で予防している。

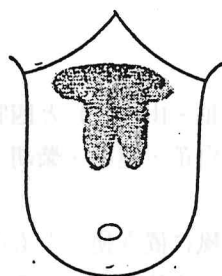
cf. 一貫堂医学：森 道伯（1867-1931）は晩年自らの多年の治療経験を集大成して鍼・灸・漢方薬の三者兼治による独特の治療体系を作り上げた。また人の体質を瘀血体質、臓毒体質、解毒体質大きく3つに分類し、それぞれ5つの処方配当した。すなわち瘀血体質には通導散、臓毒体質には防風通聖散を、また解毒体質（血虚体質で炎症傾向を呈しやすい者）の少年・青年・壮年のに対する体質改善薬として、温清飲を基本にして、それぞれ柴胡清肝湯、荊芥連翹湯・竜胆瀉肝湯を創設している<sup>9</sup>。

証・適応：（一貫堂）<sup>10</sup>

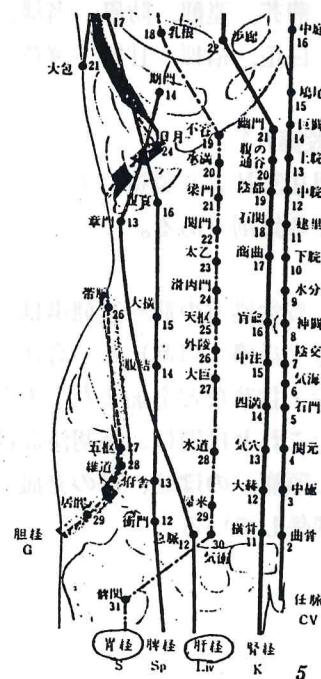
望診：皮膚の色はドス黒く、くすんでいる。一般に長身で、筋肉質、やせ型で、骨っぽい体格の者。手掌発汗しやすいもの。

脈：緊脈

腹診：腹筋の緊張が著明。肝経が緊張しすぐったがること多い他に、胃経に相当して、心下に腹筋の拘攣を認めることが多い。



荊芥連翹湯証



# 慢性副鼻腔炎に対するツムラ荊芥連翹湯の効果

東邦大学医学部附属大森病院耳鼻咽喉科

長船 宏隆, 木村 裕, 米本 正明, 吉田 友英, 谷野 徹, 小田 恂

鼻漏 (擤鼻回数)	4W	27	50	29	n=22	
	8W	6	20	62	12	n=16
後鼻漏	4W	5	29	43	23	n=21
	8W	19	25	38	18	n=16
鼻閉	4W	10	10	48	32	n=21
	8W	20	20	40	20	n=15
頭重(痛)感	4W	9	55	36	n=11	
	8W	67	33	n=9		
嗅覚障害	4W	14	21	65	n=14	
	8W	18	18	64	n=11	
鼻のかみやすさ	4W	9	27	64	n=22	
	8W	6	29	18	53	n=17

著効    有効    やや有効    無効

図1 自覚症状(%)

鼻汁(量)	4W	9	23	54	14	n=22
	8W	18	41	35	6	n=17
鼻汁(性状)	4W	9	9	41	41	n=22
	8W	18	12	29	41	n=17
後鼻漏	4W	15	15	45	25	n=20
	8W	43	19	19	19	n=16
鼻粘膜の発赤	4W	42	58	n=7		
	8W	40	60	n=5		
粘膜浮腫および膿汁の分泌	中鼻道	4W	5	60	35	n=20
		8W	6	25	38	31
	中鼻甲介	4W	5	35	60	n=20
		8W	12	19	12	57

著明改善    改善    やや改善    無効

図2 他覚所見(%)

自覚症状	手術無	62	38	n=13		
	手術有	33	56	11	n=9	
他覚所見	手術無	15	54	26	5	n=13
	手術有	44	56	n=9		

有効   やや有効   無効

著明改善   改善   やや改善   無効

図3 副鼻腔手術既往有無別の検討(8週)(%)

自覚症状	筋肉質タイプ	38	62	n=8	
	肥満タイプ	25	25	50	n=4
他覚所見	筋肉質タイプ	12	38	50	n=8
	肥満タイプ	25	75	n=4	

有効   やや有効   無効

著明改善   改善   やや改善

図4 体型別による検討(8週)(%)

## 治療対象：

中耳炎  
扁桃腺炎  
鼻炎  
蓄膿症・慢性副鼻腔炎  
肥厚性鼻炎  
にきび  
アトピー性皮膚炎  
ケロイド  
尋常性乾癬  
脱毛症  
ノイローゼ  
肋膜炎後遺症  
肺結核

## 参考文献

1. 龔 廷賢：「万病回春 五巻」
2. 松田邦夫：「万病回春解説」創元社、1989.
3. 「重訂古今方彙」
4. 「医療薬 日本医薬品集」 1994年8月版，日本医薬情報センター，1994.
5. 「一般薬 日本医薬品集」 1994-95，日本医薬情報センター，1993.
6. 矢数道明：「臨床応用 漢方主要処方解説」、創元社.
7. 松本克彦：「漢方一貫堂の世界 -- 日本後世波の潮流」，自然社，1983.
8. 伊藤 良、他：「中医処方解説」，医歯薬出版株式会社，1982.
9. 花輪壽彦：「漢方診療のレッスン」、金原出版、1995.
10. 矢数 格：「漢方一貫堂医学」. 医道の日本社、1964.

「返品」：副作用情報 185

生薬：  
成分：  
処方：荊芥連翹湯エキス 4g、四物湯エキス 4g

雑誌名：東医研データ 巻 1992年 号 頁 通算 頁

報告：副作用 標的器官：感染・免疫系  
剤形：エキス剤 投与経路：ヒト経口 投与量：8.00g/day

併用薬：

内容：アトピー性皮膚炎[s42.10.18、女]：上記処方後、皮膚の赤味や乾燥状態、痒みの悪化他を認める。この原因は地黄と考えられ、柴胡桂枝湯エキス6gに変更となった。(小泉)

「返品」：副作用情報 46

生薬：  
成分：  
処方：荊芥連翹湯 (一貫堂)

雑誌名：東医研データ 巻 1989年 \*\*\*号 \*\*\*頁 通算 頁

報告：副作用 標的器官：呼吸器系  
剤形：煎剤 投与経路：ヒト経口 投与量：

併用薬：

内容：鼻炎[s52.10.13、男]：上記処方後、下痢。1/2十全大補湯に変更後、下痢は止まり、症状もやや安定した。(丁)

「返品」：副作用情報 235

生薬：  
成分：  
処方：荊芥連翹湯 (一貫堂)

雑誌名：東医研データ 巻 1993年 号 頁 通算 頁

報告：副作用 標的器官：感染・免疫系  
剤形：煎剤 投与経路：ヒト経口 投与量：

併用薬：

内容：アトピー性皮膚炎[s53.1.19、男]：上記処方後、悪化。その後、黄連解毒湯に変更となった。(村主)

「返品」：副作用情報 117

生薬：  
成分：  
処方：荊芥連翹湯 (一貫堂)

雑誌名：東医研データ 巻 1991年 号 頁 通算 頁

報告：副作用 標的器官：筋・感覚器系  
剤形：煎剤 投与経路：ヒト経口 投与量：

併用薬：

内容：湿疹[s49.1.10、女]：上記処方後、湿疹が悪化した。(広田)

尋常性座瘡に対する漢方薬の基礎的研究「第1報」  
諸橋 政昭

生薬：黄連 黄柏  
成分：  
処方：荊芥連翹湯、清上防風湯

雑誌名：漢方医学 10巻 1986年 7号 14頁 通算 頁

報告：実験 標的器官：筋・感覚器系  
剤形：エキス剤 投与経路：ヒト経口 投与量：5.00g

併用薬：

内容：①10種の漢方エキス製剤の最小発育阻止濃度(MIC)を検討した結果、荊芥連翹湯、清上防風湯が高感受性側に分布した。②生薬では黄連、黄柏が高感受性を示した。又抗生物質に匹敵する抗菌作用を示し、このP. opionibacterium acnesに対する作用はberberineによると考えられた。

慢性副鼻腔炎に対する漢方製剤の使用経験 (第8報)  
前田 寿

生薬：  
成分：  
処方：荊芥連翹湯、辛夷清肺湯

雑誌名：漢方診療 11巻 1992年 10号 35頁 通算 頁

報告：治験例 標的器官：呼吸器系  
剤形：エキス剤 投与経路：ヒト経口 投与量：5.00g/day

併用薬：

内容：①対象：副鼻腔炎33例 期間：6ヶ月②結果：服用前後のx線所見を比較検討した結果、全体的に症状の改善が認められた③副作用：認められなかった

尋常性座瘡に対する漢方薬の臨床効果  
森 聖

生薬：黄連、黄柏  
成分：  
処方：清上防風湯、荊芥連翹湯、桂枝茯苓丸、当帰芍薬散

雑誌名：漢方医学 15巻 1991年 4号 21頁 通算 133頁

報告：実験 標的器官：その他  
剤形： 投与経路： 投与量：

併用薬：

内容：①荊芥連翹湯が81%と高い改善率を示した②P.acnesに対するMICを測定した結果、黄連、黄柏が優れた感受性を示し、その抗菌作用はberberineによるものと考えられた③電顕的検討で黄連、黄柏によりP.acnesの細胞壁細胞膜の破壊などを認め微細構造的変化からもその抗菌性が確認された

座瘡の漢方治療  
楢垣 修一

生薬：  
成分：  
処方：十味敗毒湯、清上防風湯、荊芥連翹湯、他

雑誌名：現代東洋医学 13巻 1992年 4号 11頁 通算 頁

報告：治験例 標的器官：感染・免疫系  
剤形： 投与経路： 投与量：

併用薬：

内容：①西洋医学的治療法②漢方薬治療の現況 1)漢方薬の使用頻度 2)漢方薬の随証投与 3)漢方薬の病名投与 4)漢方薬投与の問題点：通常約2ヶ月程度したら継続可否の判断が必要 5)漢方薬の基礎研究(1)P.acnesに対する漢方薬の抗菌作用(2)漢方薬のP.acnesに対する抗リパーゼ作用